

令和元年度 第1回 施設見学会及び講演会

1. はじめに

道央技術士委員会では、7月19日(金)に令和元年度の第1回施設見学会及び講演会を開催しました。今回は、白老町ポロト湖畔に誕生するアイヌ文化復興・創造の拠点として建設中の民族共生象徵空間(愛称「ウポポイ」)を見学した後、この民族共生象徵空間についての講演会を開催しました。

以下に、開催概要について、ご報告いたします。

■施設見学：民族共生象徵空間(愛称「ウポポイ」)

■講演会：「ウポポイ(民族共生象徵空間)について」～基本方針と象徵空間のソフト的な取り組み～

■参加者：施設見学13名、講演会12名

2. 施設見学会「民族共生象徵空間(ウポポイ)」

民族共生象徵空間の主要施設として、国立アイヌ民族博物館、国立民族共生公園、慰霊施設が建設中です。施設見学では、この内、国立アイヌ民族博物館、国立民族共生公園が建設中の中核区域を国土交通省 北海道開発局 事業振興部 都市住宅課の濱下和久事業専門官のご案内のもと見学しました。



図-1 民族共生象徵空間 位置図
(出典：内閣官房アイヌ総合政策室 WEB サイトより)



写真-1 濱下和久氏による施設案内の様子



写真-2 大きな博物館を背に記念撮影

民族共生象徵空間の見学は、雨が降り続く、あいにくの天気でしたが整備が進む様子を目の当たりにして完成への期待が大きく膨らみました。

3. 講演会「民族共生象徵空間への期待」

講師は、公益社団法人アイヌ民族文化財団 民族共生象徵空間 運営本部 広報営業課長の西條林哉氏です。西條氏の『イランカラプテ』(アイヌ語で「こんにちは」という意味)の第一声と共に講演会が始まりました。

(1) 民族共生象徵空間(ウポポイ)の意義・目的

アイヌの人々は日本列島北部周辺、とりわけ北海道に先住し、独自の言語、宗教や文化の独自性を有

する民族です。平成9年にアイヌ文化振興法が制定されてから、北海道内のアイヌ文化伝承活動は拡大されました。平成20年には、衆参両院の「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」、翌年には「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」報告を踏まえ内閣官房長官が座長を務めるアイヌ政策推進会議のもとに、アイヌの人々の意見を聞いてアイヌ政策が推進されています。

しかし、伝承者の減少、アイヌ語や伝統工芸等存立の危機にある分野が存在しているとともに、未だなお、アイヌの歴史、文化等について国民の十分な理解が得られていないなどの課題に直面しています。

このような背景を踏まえ、民族共生象徴空間は、アイヌの人々が先住民族であるとの認識に基づき、我が国の貴重な文化でありながら存立の危機にあるアイヌ文化を復興・発展させる拠点として、また、我が国が将来に向けて、先住民族の尊厳を尊重し、差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていくための象徴として、複合的意義・目的を有する空間として整備されているそうです。



写真-3 西條林哉氏 講演の様子

(2) 国立アイヌ民族博物館と国立民族共生公園

国立アイヌ民族博物館は、先住民族アイヌを主題とした日本初の国立博物館です。「ことば・世界(信仰)・くらし・歴史・しごと・交流」の6つのテーマをアイヌの人々の視点で語る構成になっています。中央には「プラザ展示」を配置し、時間に限りのある人でも基礎的なことを知ることができます。

博物館というと入口から出口まで、「見学する順番」が矢印で案内されていることが多いですが、国立アイヌ民族博物館では、このような決まりは無く、

好きな順序で好きなテーマだけを見ることができるよう工夫されているそうです。

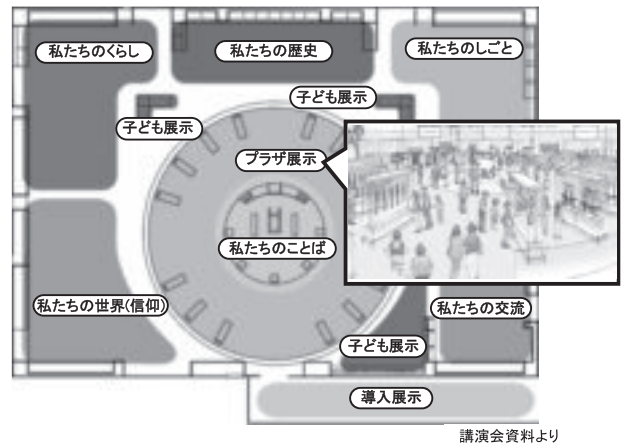


図-2 基本展示室の構成とプラザ展示イメージ

国立民族共生公園は、対話や交流を通じてアイヌ文化を体感できる体験型フィールドミュージアムです。ユネスコ無形文化遺産に登録されている「アイヌ古式舞踊」やムックリ(口琴)の演奏などを来場者が一体となって楽しむことができる体験交流ホール、木彫りや刺繍などの製作体験ができる工房、アイヌの食文化を味わうことができる体験学習館や伝統的コタン(集落)などが建設中です。これらのアイヌ文化を五感で感じることができる施設全体の規模は、以前の「しらおいポロトコタン」の約5倍にもなるそうです。



写真-4 ムックリの演奏(左)と木彫り体験(右)

4. おわりに

北海道の地名の多くがアイヌ語を由来としていますが、それをアイヌ語であると意識している人はあまり多くないと思います。今回の見学会でアイヌ文化と密接している北海道から全世界にアイヌの人々を知ってもらうナショナルセンターとして、民族共生象徴空間の建設はとても重要で私たちにとって誇らしいものになるだろうと感じました。